工事検査ワンポイントアドバイス

アルミニウム製建具における工事検査のポイントについて

工事検査通信　No.92

発行：　R6年10月２３日

出納局　工事検査課



今回のテーマは建具工事です。建具工事の中でもアルミニウム製建具における工事検査のポイントについて教えて下さい。



はい。書類検査における重要な確認項目に性能等級（耐風圧性、気密性、水密性等）があります。
性能等級の確認手順は、まず、特記仕様書で指定された種別を確認します。
次に、公共建築工事標準仕様書（国土交通省大臣官房営繕部監修）で指定された種別に該当する性能等級を確認します。
最後に、工事書類で施工されたアルミニウム製建具が、設計で求められた性能等級以上のものであるかを確認します。
（資料１参照）（資料２参照）



性能等級は、書類検査において重要な確認項目なんですね。
アルミニウム製建具に関する工事書類は、どのようなものがありますか。



はい。工事書類は、施工計画書・施工図・出来形図・出荷証明書・工事写真・試験成績書等（カタログ）があります。
（資料３参照）



次は、性能項目である耐風圧性、気密性、水密性等について教えて下さい。



はい。耐風圧性は、強風など内外からの力に対してどの程度耐えられるかを示す性能で、ＪＩＳ等級としてＳ－１～Ｓ－７まであり、性能は、数値が大きいほど高くなります。
気密性は、サッシの隙間からどの程度の空気の出入りがあるかを示す性能で、ＪＩＳ等級はＡ－１～Ａ－４まであり、性能は、数値が大きいほど高くなります。
水密性は、屋内への雨水侵入をどの程度防げるかを示す性能で、ＪＩＳ等級はW－１～W－５まであり、性能は、数値が大きいほど高くなります。
【次ページへつづく】

参考として、遮音性と断熱性についても説明します。
遮音性は、屋内・外への音の出入りをどの程度遮ることができるかを示す性能で、ＪＩＳ等級としてＴ－１～Ｔ－４まであります。
断熱性は、屋内の熱移動をどのくらい抑えることができるかを示す性能で、ＪＩＳ等級としてＨ－１～Ｈ－５まであります。性能は、いずれも数値が大きいほど高くなります。（資料４参照）



わかりました。他にどのような確認をするか教えて下さい。

はい。設計図書を基に、枠見込み寸法・形状寸法・表面処理・精度等の確認を行います。



施工上の注意点があれば教えて下さい。

はい。細かいところですが、枠、くつずり、水切り等のアンカーが、両端から逃げた位置から500mm以下の位置に取り付けられているか、木下地の場合は、まぐさ、窓台、柱、方立等にくさびかい等により仮留め後、アンカーを両端から逃げた位置から、500mm以下に取り付けられているかを確認していますので、施工図等で確認できるようにして欲しいです。（資料３参照）



わかりました。監督員が今回の工事検査のポイントを理解して、工事監理に生かしていただきたいですね。
ありがとうございました。

＊＊

●本日のポイント

アルミニウム製建具の工事監理においては、性能等級（耐風圧性、気密性、水密性等）・枠見込み寸法・形状寸法・表面処理・精度等が、設計図書や仕様書の基準を満たしているかを確認して下さい。

【登場人物の設定】

○福島県 出納局 工事検査課



：梁本(ﾊﾘﾓﾄ)検査員



：渋井(ｼﾌﾞｲ)検査員